

令和4年度 社会福祉法人 双葉会 事業報告抜粋

1. 総括

今年度、新型コロナウイルス感染症の年間累計感染者数は過去最大規模となり、寿楽荘利用者 41 名、職員 51 名、琴清苑利用者 6 名、職員 23 名、双葉会診療所職員 1 名、氷川保育園園児 13 名、職員 2 名となり、寿楽荘においては 2 回にわたるクラスターの対応を迫られる結果となりました。幸い第 7 波と第 8 波とは時期がずれていた為、殆どの利用者が病院に入院しての早期治療を受けることができました。今後、新型コロナウイルス感染症法の 5 類への移行並びに感染予防の緩和が図られる中、介護施設は一般社会と一線を画した感染防止対策を継続し利用者皆様の安全を確保しなければなりません。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で 87.2%、琴清苑で 92.3%、短期入所事業では寿楽荘 61.1%、琴清苑 53.4% という結果であり、長期化する感染症対策の影響により大幅に落ち込んでいるものの、感染症対策を継続しながら稼働率を上げるよう努めているところです。他にも高齢者虐待防止、身体拘束ゼロ、ハラスメント対策、職員の就労環境問題、看護・介護職の雇用対策等に取り組んでいるところであり、昨年 10 月以降には、育児・介護休暇・休業の取得希望者が急増しています。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果により園児数は増加傾向にあり、特に 0 歳児が増加しています。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の周知徹底に努めました。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ体制強化を図って行きます。

双葉会診療所 事業報告抜粋

1. 総括

今年度も引き続き経営の安定化に努め「コストの見直し」「診療所の環境改善」に心掛け、新型コロナウイルス感染症予防対策強化を積極的に行いました。看護師、看護補助、事務職等、人材確保に向けた取組を年間とおして行ってきましたが、全ての職種で採用に結びつく事ができず、医師採用も同じような結果に終わってしまいました。今後も引き続き人材確保に向けた様々な採用活動を行ってまいります。また、医師確保に向けた採用活動も寿楽荘と共に進めてまいります。

運営においてはコロナウイルス感染症による外来患者の増加で有り新規の疾患による患者の増加でなく危惧されるところであり、入院患者減少については職員確保が出来ない中では十分過ぎる患者数かと思われます。また、新規機材等の導入については国の補助金を受けマイナ保険証対応機器の導入をすることが出来ました。この様な状況下での診療所運営は医師を始めとする職員の協力を受け成り立ったものであり、早期に人材確保をし、職員の負担軽減に努めて行きたい。

寿楽荘 事業報告抜粋

1. 総括

安定した運営の根幹となる稼働率に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により令和 4 年度計画目標の達成はならなかった。令和 5 年度も東京都の PCR 検査事業が継続される間は自主抗原検査を併用しながら施設内クラスターの発生予防に努め稼働率の向上を目指したい。

一方、施設の運営方針として、利用者の安心・安全な生活の確保を最優先としながらの収入の維持は、重要課題の一つとして挙げられるが、職員が確保できない状況でのサービス提供は重大事故の発生及び職員の疲弊問題に派生する。事業所の経営姿勢としては消極的な形態とならざるを得ないが、事業所のベッド数ではなく介護職員数及びその技量に応じた利用者数の調整・運営も視野に入れていく必要があるかもしれない。

今後5類への移行により高齢者施設従事者である職員と、一般生活を送る周囲との差異に対するストレスを如何に職員自身が消化することができるか、事業所はどう対処すれば良いのかなど、職場環境の整備に関しては権利の行使に対する義務の履行も含め課題が山積するが、一つひとつ丁寧に対処していきたい。

琴清苑 事業報告抜粋

1. 総括

令和4年度になってもコロナウイルス感染症の勢いは治まらず、当施設においても利用者に感染者が発生する事態になりました。現場職員の業務は増大されましたが、職員の努力により大事に至らず、終息を迎えることになりました。

上半期に前年度の課題になっておりました施設利用稼働率も上昇し、満床まであと少しに迫りましたが、下半期に西多摩地域を中心に起きている入所待機者の大幅な減少により入所者が減少し、稼働率92.32%と前年度の約2.5%増にとどまりました。次年度は何としても稼働率97%を達成出来る様に対応してまいります。短期生活介護事業につきましても53.37%と前年度より14.69%増加の稼働率になりました。特に下半期の稼働率が上昇したことは次年度への期待となりました。

収入は多少増加しましたが、物価の上昇やコロナ感染症関連の支出が増加した為に、施設運営は厳しい状態が続いております。収入の増加と共に人件費の抑制は次年度の課題となりました。収支に見合った人員配置や事業を展開し安定した施設運営を行えるように努力してまいります。

職員の人員につきましてはEPA介護福祉士候補生が1名帰国しましたが、2名が就労し、特定技能外国人4名、技能実習生3名が就労したことにより、人員が増加することになり安定した業務が提供できるようになりました。人件費の抑制をはかりながら業務を行い、安定した運営を継続していける様に努力してまいります。

新施設に移転し、業務が順調に行われるようになり、オンラインを利用した外部研修に積極的に参加しました。資格のない職員に課せられた認知症初任者研修も全職員が終了し、多くの職員がスキルアップを果たすことが出来ました。今後も計画的に研修に参加し、各職員が福祉職員として心の福祉の実践を果たせるようにしてまいります。

氷川保育園 事業報告抜粋

1. 事業概況

令和4年度は、昨年に引き続きコロナ感染対策を徹底した保育となりました。感染リスクを考え、遠足・行事・園庭遊びなど多くの制限を必要とする保育となりました。

施設整備では、園庭の環境整備を行い、感染予防の為に換気対策と安全環境の構築の為に園庭全面をラバークッションに改修して、園児の安全と環境の整備に努めました。

業務意識改革として、昨年に引き続き過去の振り返りではなく、過去の積み重ねから、「どう未来を構築するか」に考え方を考える様に取り組みました。少しずつではありますが、現場からの行事企画や、新しい研修等への参加も増え、職員同士の保育向上につながってきています。

また、事業所内の組織図や職務の役割を再確認して、職種間の連携が構築されてきました。運営状況では、感染予防を第一に予算の執行に努め、今後の安全安心を確保できる長期的な、環境整備に取り組みました。